Community Medicine
── 地域医療の架け橋 ──

つばさ

2023 年 夏号
第 76 号

独立行政法人地域医療機能推進機構
神 戸 中 央 病 院
〒651-1145
神戸市北区惣山町２丁目１－１
TEL　078-594-2211
FAX　078-594-2244
http://kobe.jcho.go.jp/

地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

クローズ・アップ

麻 酔 科

神戸中央病院は地域医療支援病院として指定されており、地域の皆様が必要な時に必要な手術を受けられるような体制を整えています。当院の麻酔科医は、手術の安全性と患者の快適性を最優先に考え、最新の麻酔技術と麻酔機器を用いて患者さんのケアに取り組んでいます。

当院の手術部には7つの手術室があり、年間約2000件の手術が行われています。そのうち約1300件は麻酔科医による全身麻酔が必要な手術です。常勤の麻酔科医3人と非常勤医師がチームを組み、手術の安全な進行と患者の麻酔管理を担当しています。

麻酔は、手術中や痛みを伴う治療中に患者さんが快適に過ごすために不可欠な役割を果たします。手術前には、麻酔科医が患者さんの健康状態を評価し、最適な麻酔方法を選択します。全身麻酔では、麻酔科医が麻薬や鎮静剤を使用して患者さんを眠らせ、痛みを感じないようにします。手術中は、麻酔科医が患者さんの循環や呼吸を監視し、麻酔の深さを調節します。また、手術後も患者さんの痛みを最小限に抑えるために麻酔科医が適切な鎮痛を行います。

私たち麻酔科医は、手術のリスク評価や術前のカウンセリングなど重要な役割を果たしていますが、一般的には裏方の存在です。地域の皆様は、麻酔科医と直接接することはあまりありませんが、麻酔科医の存在は手術の成功と患者の安全に不可欠なものです。私たちは、最新の知識と技術を駆使し、患者さんの麻酔管理を丁寧かつ専門的に行い、手術中の安心と安全を提供することに努めています。

麻酔科部長　藤本　俊一

感染管理室からの近況報告

5月8日より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症になりました。

3年もの長きに渡るウイルスとの攻防を乗り越えてこられましたのは、地域の皆さまのご協力のお陰様です。ありがとうございました。

しかし、5類に変わったからといって、ウイルスの性質や身体に及ぼす影響（発熱・咳・倦怠感を引き起こすこと）が変わったわけではありません。そのため、院内ではマスクの着用や手指衛生、換気が大切な対策になります。皆さまには引き続きご協力をお願い申し上げます。

一方、面会を一部緩和させていただいています。時間や人数の制限はありますが、直接ご面会していただけることは患者さんにとって何よりのケアになると、皆さまとともに職員一同喜んでおります。

今後とも感染対策へのご協力をよろしくお願いいたします。

感染管理室　大東芳子

近隣医療機関のご紹介

いちまる内科・呼吸器内科クリニック

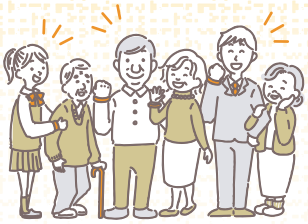
一丸 之寿 院長

〒651-1221　神戸市北区緑町7丁目2-3 MDビルII 2階
TEL　078-586-1567　FAX　078-586-1567
診療科目：呼吸器内科・内科・アレルギー科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日･祝
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	×
16:30～19:00	●	●	●	×	●	×	×

深堀呼吸器科・内科クリニックを継承し、2022年4月に神戸電鉄「山の街」駅前に開業させていただきました。呼吸器専門医として喘息やCOPD、肺癌等の呼吸器全般と、総合内科専門医として内科全般の診療を行っております。これまでシドニー大学に留学しウイルスと喘息・COPDの関係を調べたり、勤務医時代は様々な機器を用い病気の診断を行い、人工呼吸器を常に10台近く稼働させたりしていました。開業した今は手元には聴診器と心電図、呼吸機能検査器、レントゲンしかありません。わずかな情報下で患者さんの訴えを糸口に瞬時に診断を下していかなくてはならず、開業医の難しさを実感しております。そんな中、神戸中央病院様には本当にお世話になり、多くの患者様の診断や御加療によりその命を助けて頂いております。また地域の沢山のクリニック様からも咳や呼吸困難などで本当に多くの患者様をご紹介いただいております。心より感謝申し上げます。これからも患者様と共に歩み、「患者様の健康と笑顔を守るクリニック」として、呼吸器を中心に北区の医療に貢献して参りたいと思います。末永くよろしくお願い申し上げます。

認知症サポーターキャラバンについて



神戸市北区でも、高齢化は進んでおり、当院を受診される患者さんとそのご家族も高齢の方が増えてきており、なかには認知症をお持ちの方もおられます。

皆さんは、「認知症サポーターキャラバン」をご存知でしょうか？

認知症サポーターキャラバンとは、厚生労働省が、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対し、できる範囲で手助けする「認知症サポーター」を全国で養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組んでいるものです。

全国の各自治体等で認知症サポーター養成講座の講師役（キャラバン・メイト）を養成し、地域住民、職域団体、学校等を対象に、企画・開催し、講師を務めます。

当院でも認知症のある患者さん、ご家族が安心して来院できる病院を目指したいと考え、令和3年度から現在までに、看護師がこの研修を受講し、5名のキャラバン・メイト（看護師）が誕生しました。

昨年は、キャラバン・メイトである看護師が、当院の職員を対象に「認知症サポーター養成講座」を4回/年開催し、31名の「認知症サポーター」が誕生しました。キャラバン・メイト、認知症サポーターにはオレンジリングが渡されます。

当院の認知症サポーターは、名札にロバ隊長のピンバッジを装着しています。

今後は、院内だけでなく、地域の方を対象とした「認知症サポーター養成講座」を開催していきたいと考えています。

オレンジリング

マスコットキャラクター
ロバ隊長

外来看護師長
辰井　はるか

認知症に関して困った事やご相談がありましたら、お気軽に患者相談窓口までお声かけください

第18回 JCHO神戸中央病院 市民医療セミナー開催の様子

脳卒中にならないために、なってしまったら

「病院の紹介と脳卒中ことはじめ」

JCHO神戸中央病院　院長　松本　圭吾

第18回JCHO神戸中央病院市民医療セミナーに多くの方にご参加いただき有難うございます。コロナ禍以降、久しぶりのセミナーになります。病院は戦後まもない昭和23年に中央区に開設され、昭和61年に当時人口増加が著しかった北区に新築移転し現在に至っています。脳卒中の予防には「十か条」にあるように、留意すべきものとして高血圧、糖尿病、不整脈、たばこ、アルコール、コレステロール、塩分・脂肪、運動、肥満、発症後の迅速対応が重要です。「脳卒中予防十か条パンフレット」は総務課にありますのでお問い合わせください。

「脳梗塞の予防と最新の治療」

JCHO神戸中央病院　脳神経外科　桑山　一行

この度はセミナーに多数のご参加いただき誠にありがとうございました。脳卒中の予防に共通するのは動脈硬化の原因となる高血圧、脂質異常、糖尿病の管理が重要であることです。脳卒中を発症した際にはすぐに専門病院を受診することが後遺症を最小限にするために重要であることも共通しています。当院では脳卒中の患者様をいつでも受け入れられる体制をとっておりますので、脳卒中を疑えばすぐに受診をお願いします。

「脳出血、くも膜下出血」

JCHO神戸中央病院　脳神経外科　古野　優一

脳卒中診療は日々進歩しています。しかし依然として後遺症を残す患者さんが多くおられるのが現実です。今後の再生医療やロボット医療の発展でこれらを克服する時代が来るのかもしれませんが、まだ時間がかかりそうです。我々に今できることは脳卒中予防のため努力すること、もしなった場合は前向きにリハビリをして新しい生活にも楽しみをみつけつつ順応していくことです。我々はそんな患者様方に少しでも力添えできれば幸いです。

「脳梗塞予防と不整脈」

JCHO神戸中央病院　循環器内科　田中　麻里子

このたびは青空の広がる行楽日和の中、市民医療セミナーにご参加いただき誠にありがとうございました。心房細動は脳梗塞の原因となる他、心不全や認知症にも関わるやっかいな不整脈です。毎日の検脈や定期健康診断などで早期に発見し、適切な治療を行うことが重要です。みなさまが不整脈に煩わされずに健康な毎日を過ごされることを心から願っています。不整脈でお困りのことがありましたら、いつでもご相談ください。

メディカルライン

《医療機関向け》

呼吸器内科　部長　大杉　修二

難治性喘息についての話題

難治性喘息とは、『コントロールに、高用量ICS（吸入ステロイド薬）およびLABA（長時間作用性β2刺激薬）、必要に応じてLTRA（ロイコトリエン受容体拮抗薬）、SRT（テオフィリン徐放製剤）、LAMA（長時間作用性抗コリン薬）、OCS（経口ステロイド薬）、生物学的製剤の投与を要する喘息、またはこれらの治療でもコントロール不良な喘息』かつ『コントロールを不良にさせる因子に充分対応するにもかかわらず、なおコントロール不良であるか、治療を減少させると悪化する喘息』と定義されています。

現在、難治性喘息に使用可能な生物学的製剤には、抗IgE抗体（オマリズマブ）、抗IL-5抗体（メポリズマブ）、抗IL-5受容体α抗体（ベンラリズマブ）、抗IL-4受容体α抗体（デュピルマブ）、抗TSLP抗体（テゼペルマブ）の5種類があります。いずれも基本的には2型炎症を主なターゲットにした治療薬となっており、増悪抑制、OCS減量、呼吸機能改善の効果が示されています。生物学的製剤の使い分けには血清総IgE、特異的IgE、末梢血好酸球数、FeNO（呼気中一酸化窒素濃度）の測定と好酸球性副鼻腔炎、アトピー性皮膚炎などの併存症の確認が必要となっています。2022年11月に最も新しく発売されたテゼペルマブについては、2型炎症低値の病態でも一定程度の増悪抑制効果が期待できるとされています。

生物学的製剤に対する反応が不良な場合には他の生物学的製剤への切り替えのほか、2015年に保険適応となった気管支熱形成術（BT）も選択肢となります（※当院では未実施）が、製品の製造終了に伴い点検サービスやカテーテルの供給も2025年4月をめどに終了になるということで、このタイミングをもってBTについては完全に実施できなくなる見込みです。今後新たなフェノタイプに対応する新規の生物学的製剤の出現に期待されるところです。

コントロールにお困りの喘息患者様がおられましたら、当科まで御紹介頂きますようよろしくお願い申し上げます。

参考）
1）日本呼吸器学会　難治性喘息診断と治療の手引き　第2版　2023
2）チェスト社　2023年5月1日『Alair気管支サーモプラスティシステムに関する重要なお知らせ』

新任医師

脳神経外科　山中（やまなか）　巧（たくみ）

7月よりお世話になっております。これまで脳卒中、脳腫瘍、小児疾患の外科治療を中心に幅広く研鑽を積んできました。地域の皆さまの医療に全力で取り組んでいく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

退任医師のお知らせ

脳神経外科：古野　優一